



おいちょう

令和2年 6月19日

発行 鶴瀬小学校No.4

049-251-0144・0149

文責：校長 松波徳美

学校教育目標 **かしこく《学ぶ》 やさしく《和す》 たくましく《鍛える》**

鶴っ子のめあて

にこにこ

きびきび

ぴかぴか



「 コロナ禍の中で学ぶこと 」 — ESD: 接続可能な開発のための教育 —

6月から子どもたちの声が学校に戻ってきました。子どもたちがいることがなんて嬉しいんだろう、なんて楽しいんだろうと感じました。子どもたちがいることで、学校は輝きを取り戻しました。本当にすてきな日々です。人が存在すること、生きているということがどれほど尊いことなのかを、改めて感じさせられました。

地球人として生きていくためには、人間が自然の一部として地球にあるもの全てと共存していかなければなりません。コロナとの共存もその一つなのかもしれません。今、学校では、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）を行っています。ESDとは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、世界中にある課題（環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題）を自らの問題としてとらえ、一人一人が自分にできることを考え、実践し、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。コロナ禍を通して、あらためて地球人としての生き方を考えることにつながったのではないのでしょうか。

ESDを進めるためには、単に知識の伝達にとどまらない体験や体感を重視したアプローチが必要です。特に、①人格の発達や、自立心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。②他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと。等の視点が重要です。With コロナの時だからこそ、人間同士、他の生物との関係に思いをはせ、毎日を心豊かに生きていく子どもたちを育てて行く教育活動に全力で取り組みます。

